

今月の御教え

人間は勝手なものである。いかなる知者も徳者も、生れる時には日柄も何も言わずに出てきておりながら、途中ばかり日柄が良いの悪いのと言つて、死ぬる時には日柄も

何も言わずに駆けつていぬる。

……金光教祖御理解 第六十六節……

解説 教祖金光大神様は、当時の日本に於いて、上は朝廷、幕府から下は一般庶民まで固く信じられ、学者にとつても学識の一端であり、順守すべき社会通念であった。日柄方位の吉凶に對して、「それこそが天地の道理に合はぬ俗信であり、人間の難儀の根本である！」と論破されたのであります。

いかなる賢者、知者、学者といえども、自分の望む吉日を選んで生れてきたり死去したりした方は一人としていません。「人生においてその一番大事な、生まれ時、死に時の日柄も選ぶことが出来ぬのに、それ以外のあらゆる事柄において、日柄方位の吉凶を遵守することを天の道理である如く規制するとは、なんと滑稽な、不都合なことであろうか！」と見事に的確な比喩を以て、看破された御教えであります。まさに教祖生神金光大神様の合理的信仰の面目躍如たる御教えであります。

いよいよ、明年、平成二十八年四月二十四日(日)に迎える西条教会設立百十年の記念大祭を目指し、共々に一層信心の研鑽に勤しみ、大神蔭を頂きましょう。